

## CONTENTS

特集  
**始動!**  
**医歯学融合教育** — 4

医療研究★最前線「未来医療を拓く」—— 10  
分子情報伝達学分野 **高柳 広** 教授  
免疫アレルギー学分野 **烏山 一** 教授

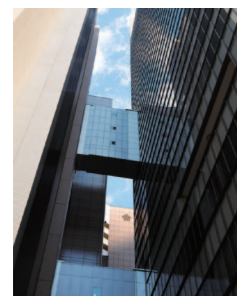
附属病院・診療科訪問 ————— 14  
**歯学部附属病院 インプラント外来**

卒業生の今「活躍する医科歯科人」—— 15  
ノースカロライナ大学デンタルリサーチセンター  
**山内三男** 教授

産学連携レポート ————— 16

医科歯科大生File ————— 18  
「自ら問い、自ら導く学生たち」  
医学部医学科3年 **新中さやか** さん

Campus Information ————— 19



### 今号の表紙

3号館(左)とM&Dタワー(右)の間から見上げると目に入る、医科新棟壁面のシンボルマーク。未来に向かって力強く伸びる東京医科歯科大学をイメージさせるキャンパス風景です。旧3号館は、現在取り壊しが始まっており、御茶ノ水方面から、M&Dタワーの全貌を見ることができます。

東京医科歯科大学学長 **大山喬史**

## 国際感覚を備えた人材育成

2010年8月4日から15日まで、私と佐々木理事(企画・国際交流担当)、がん研究に取り組み臨床部門の教授、江石、渡辺、杉原、河野先生、基礎研究部門の教授、湯浅、稲澤先生他とともに、「東京医科歯科大学ラテンアメリカ共同研究拠点(LACRC)」の開設記念式典挙行のためチリ国を訪問しました。

今回は、開所記念式典に併せて、中南米における早期大腸がん診断と治療に関する国際教育研究活動を推進するべく「日智消化器がん共同シンポジウム」を開催しました。

8月9日の開所式には、チリ国保健省、チリ大学、在チリ日本大使館、JICAチリ支所等から多数の来賓をお迎えし、さらには、1980年から1995年にかけて、本学が実施した胃がん早期発見治療プログラム

(JICAの支援事業)に参加したエクアドル、ウルグアイからも2人の医師を招聘し、盛大に執り行われました。LACRCでは、CLC(ラスコンデス病院)が保健省に対して申請する国家プロジェクト(FONDEF)に沿って、期待される臨床・教育・研究面での人材養成という重い責任を背負うこととなります。

まずは、本学は、CLC、サンボルハ病院や、今後開設予定の内視鏡センターにおける臨床指導を行う予定です。既に2010年4月以降、内視鏡部門・病理部門の医師らをLACRCに派遣しており、活動も順調に進んでおります。さらに、サンティアゴの3万人を対象にしたコホート研究を行います。

なお、この10月から医学部の4年生6人をカリキュラム上のプロジェクトセメスター期間を利用して、5カ月間LACRCに短期留学させております。将来的には、チリ国内の著名な大学、チリ大学およびオーストラル大学との交換留学を想定し、協議を進めております。

一方、2人の常駐研究者を派遣しておりますガーナの野口記念医学研究所(野口研)にも医学部の4年生を、2010年度中に4人派遣することにいたしました。また、11月23日には、タイに「チュラロンコン大学・

東京医科歯科大学研究教育協力センター」を開設しました。開所記念式典には、在タイ日本大使館・日本商工会・

日本人会、JICAタイ支所等から多数の来賓をお迎えしました。ここにも学生派遣を考えております。こうして学部学生たちが、在学中に常駐研究者の姿を目の当たりにしつつ、国際貢献のあり様、

連携研究の楽しさ、現地での人材育成の喜びを体感することは、きっと彼らが自分の将来像を描くに当たり大きなモチベーションとなるものと思っております。なお、奨励金として50万円を限度に支援しております。

学部学生だけでなく、大学院生に対しても、彼らの研究業績を顕彰し、海外研修の機会を与えることにしました。対象となる大学院生には、渡航費及び滞在費等として奨励金を支給することとしました。

先端的研究あるいは高度医療の研修を目指す海外派遣ではありませんが、発展途上国における医療現場を目の当たりにする実体験は、そうした地域における研究・医療上の国際貢献とは、

いかなるものか、いかに価値あるものか、感得する上で極めて貴重な経験ではないかと考えております。

世界に通ずる、否、世界をリードする研究者・医療人養成は本学の目指すところであり、学生の海外派遣をはじめ、海外拠点の整備・拡充、アジアあるいは世界からも優秀な留学生を呼び寄せる積極的な支援策を講じたい、否、講じなければならないと思っております。

大山喬史

M&Dタワー26階のファカルティラウンジからは、眼下に御茶ノ水駅周辺のエリアが一望できます。ラウンジは、学会、シンポジウム、各種会議など医歯学の交流の場として利用されています。